

平成23年度第10回しあわせ倍增プラン2009市民評価委員会
会 議 記 録

I 日 時 平成23年10月6日（木）19：00～21：25

II 場 所 浦和コミュニティセンター第13集会室

III 議事次第

1 開 会

2 議 題

(1) 評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について

3 その他

4 閉 会

IV 出席者

1 委員（12名）（敬称略）

委 員 長 廣瀬克哉

委員長職務代理 長野 基

委 員 伊藤巖、猪野智久、木島好嗣、栗原俊明、高島清、
野崎博行、延原正弘、橋本克己、福崎智恵、三浦匡史

2 事務局（6名）

井上靖朗（政策局総合政策監兼都市経営戦略室長）

三ツ木宏（政策局都市経営戦略室副理事）

西尾真治（行財政改革推進本部副理事兼政策局都市経営戦略室副理事）

中井達雄（政策局都市経営戦略室参事）

藤澤英之（政策局都市経営戦略室副参事）

鳥海雅彦（政策局都市経営戦略室主幹）

1 開 会

○事務局

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

開会前に申し上げます。「しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会傍聴要領」の定めにより、傍聴人の受付をしておりますが、本日は、ただいまのところ傍聴の申し出はございません。

それでは、これより平成23年度第10回「しあわせ倍増プラン2009」市民評価委員会を開催させていただきます。なお本日は、林委員、町田委員から欠席のご連絡をいただいております。また、栗原委員から若干遅れる旨のご連絡をいただいております。

続きまして、本日の委員会資料について確認させていただきます。皆様のお手元には、本日の次第、座席表、市民評価委員会開催日程を配付いたしております。その他の資料といたしまして、市民評価報告書素案（10月6日時点）、市民評価報告会の進め方について（案）、会場平面図、また第8回委員会の会議記録確定版、第9回委員会の会議記録未定稿版を配付しております。

本日の予定としましては、お手元の次第のとおり、評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等についてご協議いただきたいと存じます。

それでは、これからの議事進行は、廣瀬委員長にお任せいたしたいと存じます。よろしく願いいたします。

2 議 題

（1）評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について

○廣瀬委員長

それでは、次第に沿いまして議事を進めてまいります。

まず一番目の議題ですが、「評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について」になります。まず、評価報告書の取りまとめについてご協議をいただき、その上で実際にどのように報告をしていくかということに進みたいと思います。本日付けの素案という形でお手元に評価報告書の案が配付されておりますので、これにつきまして、まず事務局から説明をお願いいたします。

○事務局職員

前回の委員会の資料としては、報告書のイメージという形で構成や骨格が何となく見える程度の資料で申し訳ございませんでした。その後、事務局の方で委員さんの評価シートや議事録を確認いたしまして、そこから抽出すべきもの、また数値として表れたものをこの報告書にまとめて載せております。前回、前々回の委員会でのご意見の中には、前年度と比べて下がったものばかりではなく、上がったものも取り上げてはどうか、また内部評価との乖離について取り上げたらどうか、また去年もありましたが、ベスト3、ワースト3は特に章立てしないで埋め込んではどうかというご意見もありました。また表やグラフについては、ビジュアル化してインパクトのあるものにしてはどうかというご意見もありまして、それぞれのご意見を参考にさせていただいて、報告書素案

という形で作らせていただきました。

また、前回の委員会では「評価を終えて」という所感の部分は200字から300字程度を予定しておりましたが、それを原稿量を倍にしまして、委員さんの出身母体を元にしてのご意見を頂戴するなどして、さらにそれを報告会の中で述べる材料としてはどうかというご提案がありました。それらもこの報告書の中に載せております。

報告書をご覧ください。前回お話しましたが、去年の報告書をベースにしております。量的なものということでは、巻末を見ていただくとおり89ページ構成となっており、昨年の報告書が約70ページありましたので、約20ページ程、量的には多くなっております。目次をご覧ください。1章から6章までの柱立てとなっております。1項目目が評価方法、2項目目として評価結果、3項目目として評価委員会からの提言、ここまでが本編の重要な部分になると思います。そして、4項目目に委員の所感、5項目目は37ページからですが、分野別評価結果一覧です。約30ページに及ぶ個票の部分です。委員皆様方のご意見等をプランの目標や実績、内部、外部評価と合わせて載せております。6項目目は資料でございます。それでは、中身の部分についてご説明します。

1ページが評価の方法です。基本的には、この辺は去年と同じような表現スタイルになっております。進捗度と達成度の説明、また重要度評価については今年度は行っていない旨の説明を3ページに載せております。特に重要度については委員のコメントとして集約して、倍增プラン全体の評価に反映させているという前提で進めております。4ページになりますが、137事業という数字を出しておりますが、プラン自体は139事業でございまして、それについて既に達成済みの2事業については当初から評価はしておりませんでした。全体を100パーセントとして考えたときにこの2事業をどこかに入れ込まないと割合が合わなくなってしまうので、今年度評価はしておりませんが、2事業入れております。結果、このような数字になっております。「a」評価と「b」評価を合わせると8割以上になっております。そして、分野別の評価を載せております。6ページ、7ページに表とグラフを貼り付けております。木島委員からはもっとビジュアルをというご提言をいただいておりますが、今のところはこのようなグラフで表現しております。ここでは139事業をベースにした表をページ上段に載せております。このグラフでどの分野が高いか見えてくると思います。7ページは、前年度との比較です。分野別の前年度の比較を入れております。それに対して、8ページ、9ページで計10個の分野でこういった特徴があったと、見えてきたものについて表記しております。上がっている、下がっている、こういった議論がありましたというコメント等を表記しております。

そして、10ページ、11ページは評価の変動があった事業ということで、前回の委員会資料としてお渡ししたものをここに埋め込みました。非常にわかりやすい表現になっていると思います。去年と比べて上がったものと下がったものを左と右に振り分けております。上がったものが17事業、下がったものが20事業、一方去年と同じものが右端にあります。「b」→「b」は同じ

ものという形ですが、「a」→「a」はよくできました、「c」→「c」は問題がある結果だということを含めまして、上がったもの、下がったもののコメントを12ページ以降に記載しております。例えば、「b」→「a」が8事業、「c」→「b」が9事業と、上がったものの合計が17事業で、上がったものはこういったものがありました、それはなぜかという原因と考察、提言的な表現も載せております。13ページにはベスト3、ワースト3と申しますか、評価点数の高かった事業、低かった事業を載せております。一番評価が高かったのは「公共施設・家庭の緑のカーテン」で、逆に最も評価の点数が低かったのは0.6点の「多選自粛条例」でした。それら高かった低かった、その理由は載せておりませんが、結果としてお示ししたものです。14ページをご覧ください。内部評価と外部評価の乖離です。結果、0.1点しか違わなかったということです。ここでは今年は137事業しか評価していないので、実数の評価件数として137事業としています。平均点をとると、0.1点しか変わらなかったわけですが、一方で、差という意味では15ページになりますが、実際に進捗度「a」から「d」について変動があったのは6事業ありまして、一つの基準として差がどれだけあったのかという意味合いで、差が割とあった部分で、0.8点以上の差があったものをピックアップしました。それがこの15ページの表です。こういう乖離があったということです。それに対する見えてきたものを15ページから16ページに載せてあります。

そして、次が提言です。17ページ以降24ページまでで、3本柱になっております。17ページのところで今後の倍増プランの進捗管理について、2本目が20ページの今後の評価のあり方について、3本目が22ページの今後の施策展開についてですが、内容としては、1本目の今後の倍増プランの進捗管理についてというところでは、前回の委員会でもご説明しましたが、「c・d」評価が25事業あった、また「a」評価が11事業あった、そしてそれらにはいくつかパターン化した共通点があったということ、17ページから18ページに、悪かったものの分析として①から④に種類分けをして、そこから当てはまる主な事業名をいくつか載せています。ただ、一つの事業がずばり当てはまるというのではなくて、ものによっては複数のパターンに属するものもあると思います。目標達成に向けて事業の再検討が必要と考えられる事業、市民等への周知啓発が不足しているのではないかというご意見があった事業、あとは相手があってその調整に努力を要するというご意見があったもの、結果、評価に影響したのですが、高齢者サロンや防災関係などが挙げられています。行政の内部でスケジュール的に問題があったものが19ページの④にあります。19ページの下段から11事業は「a」評価であると、これを2つの区分分けをして、目標達成に向けて予算が重点的に配分されたもの、計画以上のことに取り組んだものに分けています。委員さんのご意見で低かった事業、高かった事業を種類化して載せています。

(2) 今後の評価のあり方について、これも昨年度から言われてきた部分ですが、目標の見直し等について内容としては工程表（事業計画）の明確化、社会情勢の変化に応じた目標の変更、当初の目標を達成した事業に対する今後の

評価の仕方、コストパフォーマンスも評価に加えた方がいいのではないかということをご意見、提言として載せております。委員会での協議の中から出てきた考え方等を整理して文章にしています。そして、22ページの3番目が今後の施策展開についてですが、先の委員会でこの委員会における重点事業、注目事業を挙げていただきました。それが23ページの①から③でした。市の収入増につながる事業、企業誘致や観光客の誘致などです。また、今回の大震災を踏まえた危機管理体制の充実を挙げております。そして、市民・地域・団体等との協働の推進です。委員会の中で特に重点をおきたい事業、注目すべき事業ということでは個々の事業の評価の中でいろいろご意見があったと思うのですが、ここではこの①から③を挙げております。それに加えまして、追加という形で木島委員さんからいただいたのがこの④です。先の市民意識調査の中間報告の結果を踏まえて、市民の注目関心度が高いジャンルとして高齢者福祉の充実、介護する人への支援体制の充実にも注視していきたいということで、この辺は33番の高齢サロンなどでも、三浦委員さんからもたくさんご指摘をいただいております。こういった高齢者施策についても、今後重視すべき事業として取り上げたいという形で、これを付け加えたらどうかという案として23ページには載せております。ここまでが提言の部分です。

25ページ以降は、委員さんからいただいております所感です。それが36ページまで続いております。37ページ以降は個別の分野別の評価、委員さんのコメントは評価のコメントと意見のコメントを区分して載せております。そして、資料編になりますのが75ページからです。要綱、名簿、開催実績一覧を載せております。そして、この報告書は市民の方にお示しする市民評価報告会の集大成であります。また、プランそのものをお付けするわけにはいきませんので、プランの目標は何だったのか、その時限や目標をぱっと見てわかる資料をお付けした方がよかろうということで、巻末に資料をお付けしてあります。さらに88ページをご覧ください。市民評価委員会のことを掲載しているホームページの画面を載せていますが、ホームページでもこの報告会や委員会の活動内容が載っていますという宣伝をさせていただきました。あとは、事務局からのご提案ですが、この会議風景の写真や7月の中旬に実施した委員視察についても写真を添えて載せたいと考えています。説明としては以上です。

○廣瀬委員長

どうもありがとうございました。では、この評価報告書、こういう形で取りまとめていっていいかどうか、今日の段階で確認できればこれで仕上げ方について確定をしてみたいと思います。では、まずは説明で不明な点などがありましたら、質問をしていただきたいと思います。

○延原委員

仕様書についてですね、中身ではなくて。

○廣瀬委員長

中身というよりは仕様ですね。今の説明に関して説明が不足していたり、それでは、もし途中でそういう点が出てきましたら、出していただくということにしまして、1から順次こういう形で仕上げていくということで、内容も含め

て、ご意見を順次いただいでいきたいと思ひます。

まず、1の評価方法ということですが、これはつまり何を対象にして、こういう方向で、こういう基準を立てて、このように評価をしたものだという説明になっております。まず、3ページまでの評価の方法について、これは基本的には前回は踏襲しているということだす。全体の説明について、もう少し加えていただいた方がいかなと思ひます点について触れますと、2009年11月に基の計画ができ上がり、2009年11月にできた時点から2010年3月までの数か月間の分を昨年の評価委員会で評価しました。年度が明けて、4月から丸1年間の活動成果について今年の委員会で評価をしていますが、市長さんの残りの任期やそういうことまで考えますと、実質的に本格的に丸1年の活動をした成果の評価になるのは今年が初めてであり、と同時に、おおむねもう中間地点まで来ていますということ、このあたりの説明の中にも出てきますが、実質的な初年度という表現と、それからこれがもう中間です、ここから先を見直していくのであれば、この時点でしっかり見直さないともう間に合わない、終盤に入ってしまうという趣旨の両方を説明しているのですが、我々はずっとこの評価をやってきて、ある意味、いつできた計画でいつから実施に入っているというのは何となく理解はしていますが、市民の皆さんには説明が必ずしも明確ではないので、何か時間軸のようなもので、この時期の分はこの年度の分で、この時期の分は今年度の評価で、残り計画期間としてはこうなっていて、何か図示するようなことを(1)の手前くらいの冒頭においてみてはどうかという提案をさせていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局職員

今委員長がおっしゃったのは、文章というよりも図で4年間の概要があつて、2年目を評価して、1年目が丸1年なくて短くて4か月しかないというのがわかるような感じですか。

○廣瀬委員長

はい、そうですね。

○事務局職員

確かに、要素としては、後ろの方に中間評価だとか個別にばらばらと1年目は4か月しかなかったとかありますが、全体の評価の各論に入る前に、頭に書いておいた方がいいのではないかといいご指摘かと思ひます。

○廣瀬委員長

何を評価したかということと、4年ならば4年のプランなのですが、今年とはかくこの年度、2010年、平成22年度の単年度の評価である、と同時に4年間でこの辺まで来ているということだすね。

○福崎委員

特に、一番最初の段落の下のところの前年度からの経年変化もと触れているので、(1)の前に前年度と今年度と、今後の流れがあるとすごくわかりやすいと思ひます。

○廣瀬委員長

計画期間と評価の対象というような形で図示されているのが、一番わかりや

すいのかと思います。

○事務局職員

1の頭のところにゴシックで入れている部分がありますが、1年目は1年間しかないので、単年度評価なのか、4年間どうである中での達成度評価なのかというのがイコールでしたが、2年目なので、1年目と2年目のトータルで評価しているのか、2年目を単体で評価しているのかというのを文章で書いたつもりなのですが、今おっしゃっていただいたのを含めて図示すると一発でわかると思いますので、そこは工夫したいと思います。

○廣瀬委員長

あとは点数の意味ですね、明確に示して。それから去年と違うのは、重要度評価の取り扱いが去年とは違っているということで、それが2ページから3ページに書いてあります。では、ここはどのような評価を行ったかという説明でよろしいでしょうか。もし、何か後でお気づきの点がありましたら、全体としても印刷に入るタイミングがありますので、後でいつが締め切りかというのはお示ししますが、連休明け早々には確定しないと、15日に印刷したものをお配りするの間に合いませんので、何かお気づきの点がありましたら、それまでをお願いします。

2の評価結果、まず全体としてどのような評価だったかということを説明して、ビジュアルについては、4ページのとおりです。分野という観点で(2)のところグラフと表が6ページにあります。それから前年度との比較ということで、7ページのグラフと文章があります。章立て別の概要をごく簡潔に8、9ページにまとめていただいて、評価の変化を10、11ページの表に示した上で、文章による説明が12、13ページです。そして14、15、16ページで内部評価と評価委員会の評価がどこで乖離したか、あまり大きなズレはなかったのですが、どういう観点でズレが生じたのか、それを説明しています。全体の評価そのものについては、おおむねここで概要を説明してしまう。あとは、後ろの資料編という形で各事業139項目というか137項目というか、それについての点数や取組の目標と実績、点数、委員のコメントという形で、個別はそちらを参照してくださいという構成になります。この評価結果のところ何かお気づきの点、あるいは評価結果の表現の仕方等についてご意見がありましたらお願いいたします。

○延原委員

評価結果ですが、4ページから16ページが多分そうなると思うのですが、2か所議論していただきたいところがあります。私としては、違和感がある表現が使われているので、ぜひ委員長はじめ皆さんに議論していただきたいです。5ページの上から3行目「全体の8割以上の事業がおおむね順調に進捗していると言えます」という見解に本当になっているのかどうか。私はこういう評価はしていません。それから14ページの(5)の上から7行目、アンダーラインが引いてある部分「市の内部評価は私たち評価委員会の評価と大きなズレはないものと考えます」、私の感覚でいくともっと大きなズレがあるけれども、0.1しか平均点に差がないというのは、点数上たまたま、皆さん内部評価に

比較的近づけて点数をつけているだけで、例えば、内部評価が7点というのを6点や8点に付けても、7点を5点や4点にはしていません。それほど極端な差はつけないで、皆さん評価しています。ここの表現、この2か所をぜひ議論していただいて、これでよければそれでいいかもしれません。

○廣瀬委員長

まず、5ページの「全体の8割以上の事業がおおむね順調に進捗している」、「a」または「b」の評価が114事業なので、139項目のうち82パーセントになる。ここまではそのとおりですね。これを文章で表現するときには全体の8割以上の事業がおおむね順調に進捗しているという表現でよいかということですね。委員の総意として文章に残りますので。

○事務局職員

一つ、ドラフトを書いたところとして、参考として説明いたしますと、先ほどの後ろの部分も同じですが、点数上、形上の評価とした上で、それでは本質的なところにはならないというを22ページで書いたつもりでしたが、確かに、頭のところに分かれて出てくるので丹念に読むと延原委員がおっしゃったことをご理解できるように書いたつもりでしたが、ただここだけを切り出して見たときに表現としてどうかというご指摘だと思いますので、そこはご議論いただければと思います。

○廣瀬委員長

進捗度の言葉そのものを使って言うのであれば、全体の8割以上の事業がおおむね予定どおり実施されているということですね。

○延原委員

今、井上さんがおっしゃったように、22ページのニュアンスが5ページや14ページにうまく入ってくれば、あまり違和感はないです。

○事務局職員

というご趣旨ですね。

○木島委員

点数でいうと、6.6点が平均ですよね。なので、進捗度だけで順調と評価するのではなく、6.6点も混ぜて評価された方がいいのかなという気がします。7ページのグラフで標準に達しているものはほぼないという見方もできてしまいます。そうすると、おおむね順調に進捗しているとまでは言えないのではなかと。点数も混ぜて評価した方がいいかと思います。

○延原委員

違和感を感じますか。

○木島委員

おっしゃるとおりだと思います。本当に8割できていたら、6.6という平均点にはならないと思います。

○福崎委員

例えば、5ページの段階では数値を見て言える事実だけを述べることにして、左のページにあるようにこの事業がこのような結果になりました、右のページではこれが114事業になりましたというところで終えておいて、全体として

このようになりましたという総括のようなものは、木島委員がおっしゃったように点数を踏まえて書いた方がいいかと思うので、もう少し後に。全体の評価結果というふうにくくってしまっているの、ここで何か総括的な文章を載せたほうがいい気もしますが、ここで総括をするのは早いのではないかと、情報が足りないのではないかと思います。ここにある1文がひっかかると思います。

○延原委員

私は違和感がありますと言いましたが、別に僕に賛同しなくていいのですよ。

○福崎委員

私も最初、順調に進捗しているというところを最初思ったのですが、順調にというのを予定どおりに変えると価値判断もなくなるなどと思って、言葉一つを変えるだけでだいぶニュアンスも変わってくると思うのですが、この一文の特性が全体を総括してこういうことが言えますというのが言いたいというのであれば、今ここに置くには少し早い、もっと後ろに重要なデータも出てくるので、もっと後に回した方がいいのではないかと思います。

○廣瀬委員長

確かに、分野別の平均評価点も7点を上回るのは行動宣言と行財政改革、経済・雇用で、それ以外については7点には至っていないのであって、その微妙なところに、特に本格的な実施に入った事実上の初年度に対する我々の評価、それも初年度に対してやや辛めになったという特徴が出ているわけで、その意味ではこの5ページの3行目から4行目にかけてのまとめに見える部分については、ちょっとニュアンスが違って伝わっていると思います。一つは、まさに「b」以上だからおおむね予定どおり実施されているという評価の用語そのものをここに置くというのが一つなのかなと思います。その手前の「なっています」で止めてしまう手もありますが。

○事務局職員

中でやっていたときに最後落としてしまって、初めは4段階評価があつて後で点数をとるというふうに思ったのですが、14ページに内部評価と外部評価の差がありますが、ここでは4ページと同じような表を使っていて、ここでは実は平均点を入れています。平均点のこの点を4ページのように入れてしまって、進捗としてはおおむね8割以上が予定どおり。ただ、7点を下回っている部分というので、2年目に入って事業を実施する中での減点要素がやはりあります。実際に見ていくと、いろいろと書いてあるところだったり、最後の提言につながるころだと思えます。それは、まさにスコアという意味では2年目の評価として表れているというのをその文章に入れ込むと、今いろいろとご議論いただいたニュアンスが伝わるのかと思います。予定どおりには実施されているけれども、点数が7点を下回っていて、実際に進めていく中での減点要素が見られると。

○廣瀬委員長

できるだけ冒頭のところで全体として、つまりどうなのかということは書いた方がいいかと思えます。後ろまで読まないとうる評価しているのかがあまり出てこないのは、この報告書の伝える力としては。

○木島委員

おっしゃるとおりだと思います。言葉を「b」の予定どおりと言い換えたとして、ただ全体の8割以上の事業が予定どおり実施されているとなると、今とあまり変わらないようなニュアンスになるのではないかと思います。

○事務局職員

2ページにありますように、「b」は8、7、6点で3つとも「b」なので、こういう形になってしまうので、今政策監が言いましたようにおおむね予定どおり実施されているけれども、いわゆる標準点の7には達していないということを加えれば多少ニュアンスが出るかと思います。

○木島委員

自分たちが出した結果なので、当然文句があるわけではなくて、何となく8割順調、8割予定どおりとなってしまうと、さすがに違和感があるかなというところではあると思います。

○延原委員

非常に素直に発言させていただくと、標準点の7を切って、内部評価も我々の評価も6点台というのは順調に進行しているとは言えないということになります。私が素直にやるとここに書いてあることは全く反対の表現になってしまいます。そこまで言うと気の毒だから少し曖昧に言っているだけで。

○木島委員

「b」で予定どおりという言い方をしているところに少し違和感があります。

○福崎委員

一つ、図の提案なのですが、このような感じで、進捗度だけではなくて、1から10点の点数に対しても139事業に対してどれくらいのパーセンテージがあったのかを示して、7点を含むそれ以下が全体の何パーセントなのかということを示せば、予定どおり実施されているけれども、質的な面を見たら委員としては物足りないと感じる部分が多かったということが言えると思うのですが、どうでしょうか。この左側の表が「a・b・c・d」の評価しかないので。

○事務局職員

例えば、何点台の事業がどれくらいあったかということを示して。

○福崎委員

パーセンテージを示せば、7とか6が比較的多くて、それ以外はばらついていると思うので。実際に今の議論では7点台以上でなければ順調に進捗しているとは言えないという意見があったので、1から10点の分布で、7以下が全体の何割になっていますという事実から、予定どおりではあるけれども、この内容としては見直していただきたい、もっと努力していただきたいと委員は思っているというふうにまとめられると思うのですが、どうでしょうか。

○三浦委員

あまり複雑に考えずに、6ページの表と4ページの表をちゃんと合わせて、6ページの表に全体で評価点が6.6だと出ていますし、「2 評価結果、(1) 全体の評価結果」「(2) 分野別の評価結果」となっているので、分野別評価

結果は大したことを言っていないので、6ページと4ページに分かれている表図をひとまとめにして、評価結果を全体及び分野別ということで、一気に述べればいいのではないかと思います。具体的に言うと、6ページの表で全体も分野別も言えます。4ページの図は「b」は予定どおり進捗しているということを書いてまとめていますが、「b」の割合が出てきてもあまり意味が無く、スコアが出ていけばいいのかと思います。あっても邪魔ではないですが。あまり増やすとどこを見ていいのかわからなくなるので、評価報告書と一致して言いたいところはスコアまで分析していれば分野別も全体も充分で、進捗度のばらつきも、ここで「b」が72.7パーセントというのも出てきているので、いわば4ページの表は6ページの表から分野別だけの特出しにしています。

○事務局職員

6ページの表に進捗度の定義が入っていないというか。

○三浦委員

定義は2ページにあります。

○事務局職員

感覚的なことと言えば、全体のことが6ページの一番下に来ているけれども、例えばこれを1行目や頭に持ってくれば、全体の分野別ということでわかりやすいということですか。

○三浦委員

そうですね。

○廣瀬委員長

表としては、まさに6ページの上の表が分野別も含めているので、評価結果としてこの表が1枚あれば、情報として持っているものは4ページの表と同じことですよね。進捗度の定義が再度掲載されているかいないかの違いで。グラフとしては、4ページの下全体の構成の円グラフと、6ページの下棒グラフを組み合わせで出しているの、表そのものは6ページの上があれば情報としては充分かもしれないですね。

得点ランク別にやろうとすると、結構「b」と「c」で拮抗したけれども、若干「b」が多かったという場合に、「b」だけでも、5.いくつとかがあって、それは複雑になってきます。皆が「c」で5.いくつというのがあれば、「b」だけでも、5.いくつと逆転しているものも、丹念に見るとそれに近いものが多分あって、結構ややこしいですね。

○福崎委員

少数点の平均点の方ではなくて、私たち委員が書いた整数の1から10の得点の評価で出したのですが、そうすると膨大な数になると思ったので、三浦委員がおっしゃった同じ表と一緒に言うというのに賛成です。

○栗原委員

こういう報告は、必ず何かしらの意見が入るわけで、例えば、4ページの円グラフを載せている理由は「b」評価が多いというのを見せるための図だと思います。結局そういうところで、でも実際に僕らは「a・b・c・d」というのを使って評価しているわけで、かといって全体の8割がうまくいっていると

は誰も発言していないです、僕の記憶では。かといって事実と反することをここで言っても仕方がないので、例えばこのままもし行くのであれば、全体の8割を占めていると書いていいのではないかと、事実として、誰が見てもわかることなので。全体の8割を占めていますと。そこから先はミスリードになってしまうので、文章については載せなくてもいいのかなという気がします。最終的に考察の部分で、どうしても文章が必要であれば、全体の8割の事業が「a」か「b」かで終わっているものではあるものの、そこでちゃんとしたことを加えればいいのかなと思います。

○延原委員

どちらにしても考察は入れるわけですね。結果及び考察ですね。考察のニュアンスに違和感があると言っているのは、多分そういう考察になると思います。

○三浦委員

2の評価結果が(1)と(2)に分かれているのは、何か名前を工夫しないといけないのですが、分けずに評価結果にしてしまって、今4ページと6ページに分かれている表図を一まとめにして、全体の評価コメントは先ほどからあるように、全体の8割以上の事業が「a・b」を占めている、「a・b」であったでもいいのですが、ただ分野別の方がもう少し書けるのですよね、きっと。分野別になれば、先ほど委員長がおっしゃったように7.0ポイント以上獲得した分野は実は少ないわけで、何らかの減点要素を持っていると評価を受けたというふうに書けるわけですね。むしろ分野別評価は、今(2)になっていますが、ここでもう少し分野別の減点要素があるというのをきちっと書けば、全体の評価結果のところそう順調でもないというのがすぐ出てくるので、それ程違和感がなくなるのではないかと思います。

○廣瀬委員長

いかがでしょうか。まず、(1)と(2)にあえて分けることはなくて、むしろ(3)が前年度との比較で、(4)が評価の変動なので、(3)と(4)が続いているのですね。それから(5)が評価委員会と市の内部評価の差なので、(2)をやめて、(1)を22年度の評価結果として、まず全体と分野別にブレイクダウンしたものを示す。進捗度の分布でいうと、こうなっていて、分野別に見ていくと評価点としては7.0を越えているものがこれで、6ページの下の方には、例えば比率的に言うと、「b・c」が拮抗しているものであるとか、「b」がそれなりに多いけれども、「c」もそれなりにあってといったものが見えていますので、そういう観点から見ると、「a・b・c」の分布でいうと、そこそこ順調ではあるものの、結構減点要素も見えてくるということが分野別のところで、一応頭出しをして、評価の内容に関連するところはもう少し後ろにずれてくるので、あまり踏み込まず、まずはこの表から読み取れることを淡々と事実として評価結果の「a・b・c」の分類と点数の分布として示すという形で4ページから6ページをそのように取りまとめるということによろしいでしょうか。

(異議なしの声)

次に問題提起がありましたのが、14ページの評価委員会の評価と市の内部評価の差、点数でいうと特に平均点ということで言うと、0.1になるものですが、大きなずれはないものと考えられますという表現をしてしまうことでよいかということですが。

○延原委員

もう一度説明させていただくと、この文章は「このことから」で始まるのですが、このことから市の役人の評価と市民評価委員会の評価に差はない、と言い切るには違和感が大きすぎるので、これも委員の中で議論してもらいたいです。確かに、0.1しかないなので、それを否定しようとは全然思っていません。以上です。

○木島委員

7ページのグラフは21年度ですね。失礼しました。こういうような形で見たときに、もし分野別で比較した時に、分野別に市の方の評価と我々の評価をした時というのは、どれくらい差があるかわかりますか。

○三浦委員

データでグラフ化されていないのですね、15ページは。

○廣瀬委員長

例示的に差の大きいものを出していただいているのですね。137項目のうち、9項目で相当マイナスで幅が大きいのがこれだけあるということは、残りで薄くプラスになっているものがあるって、全体で見るとマイナス0.1の差がついているというので、平均した時ほど実は結果が近いとは言えないのですね。平均すると0.1になるけれども、個別に見ていくと実は差の大きいものはいっぱいあると。それは打ち消されて結果的にそれだけ差がなくなっているだけなので、論理的にも「このことから」というのは、少し違うかもしれないです。少なくとも検証できていないと思います。

○事務局職員

全体としての点数としては、としか言えてないということですね。分野別にやったとしてもマックスで開くのはやはり0.1ですね。あ、失礼しました。高齢者だけが0.4あります。内部評価が6.4で、外部評価が6.0なので、高齢者の分野だけは0.4ずれますが、あとはせいぜいずれて0.1です。

○木島委員

差を絶対値でやったら、もう少し出てきますか。プラスマイナスでやると平均して差が小さくなってしまいますが、市の評価と我々の評価の差があったときに、それを単純に上にずれても下にずれても…

○事務局職員

プラスに何点、マイナスに何点ということでそれぞれ…

○木島委員

そうやってしまうと多分平均になってしまうので、マイナス1でもプラス1と考えて…

○事務局職員

とにかく、ずれたものの合計として出すということですね。

○木島委員

それでも同じになってくれば、本当に近いのかなと言えるのかもしれないですが、先ほど委員長が言われたように、これだけマイナスでずれがあれば、どこかで調整がされていると思うので。

○廣瀬委員長

プラスのずれも多分若干で、この0.6以上のところに出てこないとすれば、もう少し薄いプラスのずれがここにある数よりはもう少し多い数であって、結果全体で平均するとマイナス0.1になってくることだと思います。分野別も高齢者は7事業しかないところに1個2.3という特大の差があって、この特異値に引っ張られています。全体の平均としては大きなずれはない、という表現にすれば嘘ではないですけれども。

○事務局職員

それともう一つは、ここが強調した形になっているので。一つは淡々と、という意味では点数を、後ろの方の質的な部分では逆に相当書いているつもりですので、点数としてはというのと、点数の平均点と二重になるような形ですが。

○廣瀬委員長

「その差は0.1点でした」でもうやめてしまい、「このことから」という文章はやめてしまう。その差は0.1点でした。しかしながら個別で見ると、ちょっと差がありますと言う。

○事務局職員

点数の話だけをとっても、個別で見るとずれがあるという。14ページの一番下の段落のところにありますが、全事業を分析して見えてくる共通要因はなかったですが、少し感覚的なことになってしまいますが、やはり内部評価をした職員としては初めての事業で苦労した感じのものが上がっている傾向にあって、それは内部の話なので、できて当然だということに評価していただいたものとずれがあるということだと思います。その辺に若干質的な部分も入り込んだ分析の形にしていますので、事実で止めるというのは確かにあります。

○延原委員

質問したいのですが、この文章を入れたというのは、やはり皆さん側からすれば内部評価と外部評価が一致していると強調したいのですか。

○事務局職員

点数のところではですが、やはり実態として、質的なところに関しては相当ずれがあるのは10回の委員会の中でわかっておりますので。

○延原委員

質的なずれを聞いているところを書き込んであれば何も言わないのですが、これはさすがに私は委員として責任持ってこの文章は書き込めない。市民の皆さんに申し訳がたたないという感じです。

○三浦委員

先ほど木島委員がおっしゃったような、ずれだけを加算していく方法、ずれにクローズアップする点の出し方に気付かなかったのですが、タイトルが委員会の評価と内部評価の差なので、平均したら差は0.1でしたというのが事実

として、評価点の落ち着きどころはここでした。でもそれはあくまでも評価点の平均化したものなので、差を平均化したものではないです。だから差を平均化するのであれば、足していってずれがこれだけでしたという言い方はあるかなと思いました。

○事務局職員

それを点数でやるという形もありますし、例えば、内部評価よりも外部評価の点が高かった事業が何事業あって、下がった事業が何事業、その点をもう少し刻んで、例えば0.何点以上ずれたのが、上に付けていただいたのが何事業あったけれども、逆に0.何点以上減点した事業も何事業ありましたというのは、木島委員や三浦委員がおっしゃっていただいたように、書いているところには全部出ますので、事実としてそういうのがあるということは、つくろうと思えばすぐにつくれます。

○廣瀬委員長

結構上にずれているのもありますね。上にずれているのもあって、下にずれているのもあって、0.1というよりは個別に見るともっとばらついているのだけれども、結果的には平均化されているということで、例えば、正しいかどうかわからないけれども、メリハリの差、7を標準として、上はより上に出ているし、下はより下に出ているのかもしれないし、でもそれを得点そのもので平均すると差が見えない。

○三浦委員

悪い見方をすると、内部評価と外部評価と差がないのであれば、やらなくてもいいのではないかととなりかねないかなど。やはり一つ一つはきちっと内部とは違う目で見ると、差はあったのだということはここでは言いたいような気はします。

○延原委員

どのように文章化するかは委員長にお任せしますが、総合で差はないけれども、市民評価による大きなずれは多々あると。良い方にずれるのもあるし、マイナスの方にずれるのもあると。これは市民が評価した上で意義のあることだというのが、一番素直な表現だと思います。別に悪いことばかりではなくて加点したのもあるのもよく覚えていますので。そういうことなのですよ。

○事務局職員

今入れている表を進捗度の「a・b・c・d」の4つごとに平均してしまっているんで、こういう形の平均をとるよりも、三浦委員からご提言のあったような形のものでやって、平均としてはあまり差はないですが、この程度ずれがあったということを事実として文章で書く。その中で特に大きくずれのあったものを取り出してみると、15ページの下段落以降だという分析にすることですね。

○廣瀬委員長

ここに0.8高く付けているものも1つ出ていますが、それだけではなくて、もう少し幅は少ないけれども、評価委員会の方が点が高いものもありますから、評価委員会の方が高かったものが何項目と、低かったものが何項目、何点以上

という敷居をつくった方がいいと思いますが、平均というよりは、実はこのような感じで良い方にずれるもの、より辛かったもの、両面あります。それを少し掘り下げてみると14ページの下のような表現につながりますという形で取りまとめるということにしたいと思います。

(異議なしの声)

では、その手前を含めまして、2評価結果のところ、4ページから16ページまででほかに何かご意見はありますか。

○三浦委員

先ほど少し委員長がそういうふうにとりまとめたところですが、(1)と(2)が22年度評価結果で、(3)と(4)が前年度評価との比較、(5)が内部評価との比較なので、大きく3項目にした方がいいのではないかと思います。

○廣瀬委員長

これはまさにおっしゃるとおりで、そのような形にとりまとめるということではよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

では、そのほか2のところ、4ページから16ページの範囲でご意見ありましたらお願いします。

では、「3 評価委員会からの提言」の部分を検討いただきたいと思います。ここはまさに提言となっておりますが、質的な評価という要素が入ってくる部分になります。冒頭にまず、今年中間評価の年だと書きましたが、その上で1で今後の進捗管理についてということで、遅れているものについてどういことが原因であって、どういことが必要であるのかという観点から①から④。それから順調なものについて、どういことで順調であったか、それについて①と②、遅れているものと「a」評価になっていて順調に進んでいるものをそれぞれ要因分析をした形です。それから、(2)は今後の評価のあり方についての提言になり、(3)で今後の施策展開についてになっています。

○猪野委員

確認ですが、「3 評価委員会からの提言」は市民評価委員会から出たコメントを強調して載せてある項目なのではないでしょうか。それともこの中には事務局がこれからこうしようという意見も含まれているのでしょうか。

○事務局職員

基本的には委員会の意見を踏まえてということになってはいますが、そのまま載せているものと、集約してこちらで解釈して書いているものもあります。その解釈のところでは少しずれがあるかもしれません。そこはご議論いただきたいところです。

○猪野委員

これを手に取った人が思うことは、実際に提言がどこまで生かされているのかということで、そこが重要だと思うのですが、実際に23年度がこの時期まで進んでいて、これが一体どこまで反映されているのかということは載せられないのでしょうか。そこが結局のところ大事なのだと思いますが。

○廣瀬委員長

それは、これから提言するので、現時点で反映されているというのは、ここでのやりとりを先に受け止めて今年度の実施の中で修正しているものがあるとなれば一部あるかもしれませんが、むしろ例えば24年度の予算編成や事業計画、あるいは目標設定の中でどのように修正をしていただくかということなので、やるとすれば今年提言したことを来年の評価の中で検証していくことではないかと思います。

○猪野委員

ちなみに、去年の評価委員会の提言が反映されているかということも分からないのでしょうか。

○事務局職員

個別にはありますが、もう一度全部整理をしないと出てこない、今手元ではまとめてないです。今年度も個別の事業で見たときには、例えば、民間建築物の耐震化では遅れているという話もあって、実はこの10月から補助率などの引き上げをしました。昨日市長が定例記者会見で言ってましたが。個別にはありますが、「3」のところはどちらかということ全体としてということなので、個別の所管で事業で対応するというよりも、もう少しいろいろな施策に織り込んでいかなければならない話なので、取りまとめとしてぱっと見てわかる形で書けるかどうかは・・・個別の事業でご指摘があったのでこうしましたというのは、作業としてはやれば当然できます。

○延原委員

評価委員会の報告なので、評価委員の提言に対してこうしましたというのは我々の発表ではないですよ。もし21年度、あるいは22年度の途中経過で予算編成で変えてくれたというのであれば、清水市長がここは変えましたと言言ってくれれば、それは誉れが非常に高いですが。一度頼んでくれますかね。例えば、先ほどの60万円から120万円上げたというのが、もしこの委員会の議論を踏まえたのであれば喜びも大きいですが、そうでないならば別に構わないけれども。

○廣瀬委員長

今の我々の議論がということ言えば、議事録等からこういう論点はこういうふう指摘されていてということ整理しながらまとめていただいておりますが、(3)あたりは割とストレートに個別に拾っていただいておりますが、(1)の方はいろいろな指摘をもう一度整理して分析すると、このように集約できるかなというふうに工夫をして表現していただいているので、(3)でご自分の発言はこういう趣旨ではなくてとお気づきのところがあればご指摘いただければと思いますし、(1)はこの指摘のニュアンスは少し違うのではないかとご意見があれば、今日の段階で出していただかないと間に合いません。前回はここまで文章化される手前の、このような要素やこのような分析ができるのではないかとアイデア段階でお示しいただいていたものを、肉付けをして文章化していただきました。

○木島委員

19ページの①ですが、その前で④まで来てからまた①に戻るのは、章立てが変わっているのでしょうか。

○廣瀬委員長

(1)の中に①から④まで行って、また(1)が続いているのに①になるということですね。

○事務局職員

ここは中見出しなどを入れます。

○三浦委員

18ページの②の市民等へのPR不足が原因と考えられるものが、私としては少し違和感がありまして。挙がっているのが、パブリックコメント、マッチングファンド制度、介護予防。民間建築物の緑化はPRの不足と思わなくもないのですが、原因がPRだけではないと思うので、少し矮小化されている気がします。取り組み方自体に少し課題があるものが含まれていて、「市として一生懸命取り組んでいるのですが、その内容や意義などが市民に伝わっていない」というのは少し違うかなと思います。PRだけの問題ではないと思いますが、いかがでしょうか。特に「事業によってはもう少しターゲットを絞った広報が必要ではないか」、広報も大事ですが、個別ヒアリングのときにも意見を述べているので繰り返しません、マッチングファンドや介護予防などは仕組み的に言いたいことはあったので、PRに収れんするのは少し違和感があります。

○廣瀬委員長

内容が市民のニーズにぴったりきてないから周知しようということもあるだろうし、取組内容や方法ですかね。

○三浦委員

例えば、マッチングファンドで言えば、やろうとしていることはとても有意義だと思いますが、コーディネート機能がないからうまく使ってもらえていないのではないかと、制度を生かすための仕組みがもう少し必要なのではないかと。介護予防もそうです。ただ広報をすれば介護予防の事業も取り組んでくれる人が増えるかといえばそうではなく、確か所管課も地域包括支援センターと連携をとってやる方法を考えたいとか、少し仕組みをより工夫するという回答もあったと思います。

○廣瀬委員長

コーディネート機能とか、もう少し実際のニーズに届くようなネットワークをうまく活用しできるかどうかとか、そういう趣旨ですね。

○三浦委員

それをPRと言ってもいいのかもしれませんが、少し私の感覚でPRと言うと、より広報費にお金をかけるという発想になってしまうのではないかという気がします。

○事務局職員

PRというよりも、施策の対象となる方々のニーズに応じた事業手法を考えるべきという感じでしょうか。その一つとして、そもそも伝わっていないとい

うのがあるかもしれないし、伝わっているけれども、その事業に参加すると踏み出す手当てができていないと。

○三浦委員

例えて言うと、高いところにおいしいような物があって、階段をつけてくれたのだけれども、その人は階段が登れない。見えているけれども、そこにリーチができないという類のものがここに並んでいると思います。

○事務局職員

①と差別化して、違う項目として…

○廣瀬委員長

①の方が、目指すものはいいとしてもその実現方法や中味でもう一度練り直しが必要なのではないかと、②の方はターゲットに届いていない感じですね。その届いていない程度が、PR不足が単に解消されれば解決するほど単純なものではないということですね。

○事務局職員

この辺はどうでしょうね。市民ニーズの把握やPRが不足している、制度に工夫が必要と入れて、原因を複数にする。

○廣瀬委員長

使いやすさや使える条件、整え方など…

○三浦委員

「確かに市として一生懸命取り組んでいるのですが、」というところは、制度そのものは的外れではないというニュアンスだと思います。

○事務局職員

そうですね。①は事業を別の事業に展開した方がいいのではないかというイメージですが、②はどちらかというところ、その中でやり方を工夫してということですね。

○三浦委員

やろうとしていることは的外れではないけれども、せっかくのアイデアが生かされる条件が揃っていないということが言いたいのですよね。

○廣瀬委員長

ターゲットを絞った広報というよりは、ターゲットになる方が実質的に使いやすくなる、あるいは手が出やすくするようなアプローチの仕方、仕組み、つなぎ手のような話でしょうか。

○福崎委員

私もあまりいいアイデアは思いつきませんが、利用方法の整備不足とか市民が事業を活用するための手続きの整備不足とか。

○廣瀬委員長

目指しているところはいいのだけれども、生かしやすい条件が一步足りていないというような感じのことで表現は調整させていただきます。

○三浦委員

もっときめ細かくつくり込んでほしいということですね。

○事務局職員

もう一工夫必要ということですね。実際に活用されるためには一工夫必要と考えられるものということでしょうか。ご趣旨はわかりましたので、工夫を試みます。

○廣瀬委員長

そのほかありますでしょうか。

○延原委員

20ページ下の(2)のアンダーライン部分「倍増プランそのものの、あるいはその評価のあり方について中間見直しが必要と考えます」、その評価のあり方というのは、私は意味がとれないので、これどういう意味ですか。数値目標のあり方については議論したけれども、評価のあり方については意味がとれない。

○事務局職員

イメージとしては、③を指しています。そもそも評価のプロセスから外すのか、単年度評価をもう一度ちゃんと立て直すのかということイメージしたのですが、対応関係としてずれていて…

○延原委員

自己評価のやり方そのものというのであればわかるのですが、ここの意味が私はとれないです。事務局は何か考えてつくっているのでしょうかから、もう少しわかりやすく表現してもらいたい。

○事務局職員

③とか④を一言で言うとうどういうことなのかを、評価のあり方と書いてしまうと、対象が広すぎて何を指しているかわからないということですね。

○延原委員

それと私の意見として申し上げますと、見直しが必要ではなくて、見直しは必須です。私のニュアンスでは、必ずやってくださいという意味です。

○事務局職員

(2)は今後の評価のあり方についてという標題ですが、これも表現を変えてということですか。

○延原委員

評価のあり方というと、我々が評価するあり方ですよ。職員の自己評価ではないですよ。だから2行目に「数値目標のあり方について議論がありました」というのは我々の見解ですよ。あるいはその評価のあり方というと、我々はその評価のやり方を変えないといけないという意味にとれるので、どういう意味で書きましたかと質問しました。そちらの事務局が意図することが正確に伝わるように書いていただいて、評価委員会の評価のやり方を言っているわけではないですよ。

○事務局職員

そうですね。評価委員会の評価に付す際の内部の整理を変えるべしということです。

○延原委員

ですね。そのように変えていただきたいです。それはもう委員長にお任せし

ます。

○廣瀬委員長

プランそのものをいろいろな面で当初のものだけで固定してしまっても、ここまできたらほとんどできたということで発している、未達成のところだけをやっていくのか、そこから先も課題は残っているだろうから、あるいは先に進める項目もいろいろとあるわけだから、そこを当初2009年の時にはなかったところまで踏み込んで、次の活動目標も設定しながら、それも評価していくことにするのかどうかとか、そういうことも含めて書いていただいていますから。

○延原委員

委員長にお任せします。

○三浦委員

私も委員長にお任せで構わないのですが、自分の理解のために発言しますと、どちらかという評価のあり方よりは評価の対象となる事業目標のあり方の方を中間で見直すという意味合いでよろしいですか。当初の事業計画ではもう22年度、23年度で完了してしまうもの。

○延原委員

私のニュアンスはそうです。倍増プランそのものを直すのか、あるいは目標値を変えるのか、そういうことは必須ですねと言っているのです、そういうことを言っているのであれば、それで結構です。

○廣瀬委員長

1は評価に適さないような形でしか工程表の設定ができていないものについてはちゃんとやってくださいと、2は結果的には「a」にはなっているけれども、社会経済情勢の変化などでその次はどうするのか、ある意味で言うと、蓋を開けてみたらできていて当たり前だとすると、もう1回本当にどこまでやらなければならないのか考えてください、もう完了しているものについて完了したからおしまいとするのか、完了したらそれを活用してどう進むかを考えるのと、これはそれとは少し性質が違いますが、ここの議論の中ではどんどん資源を投入すればできるのは当たり前だけれども、効率性の観点からはどうなのか、その尺度は必ずしもプランの中には出ていない、あるいはその評価としてできるような形の工程表や評価シートになっていないので、それをどうするのか、課題がありますということです。

○事務局職員

来年度の評価委員会に評価してくださいというのであれば、こういうことをちゃんと整理して持ってきてくださいというふうに市に提言するという事なので、それをどう評価につけるか。評価委員会から出すもののあり方なのですが、評価と言ってしまうと延原委員がおっしゃったような誤解が生じて…

○廣瀬委員長

そろそろ今後の修正をしてこれで行くというのを確定してもらわないと、2009に始まって、2009年度くらいのところについては当初案で物差しとしては充分だったかもしれないですが、そろそろこの辺はどうするかというこ

とを定めてくださいというニュアンスです。

○事務局職員

すみません、これも考えさせてください。趣旨は理解しました。

○廣瀬委員長

(3)については、④が追加という形で一応入っていますが、「以下の3つを提言します」となっていますので、入れるか入れないかの未確定バージョンです。

○木島委員

④は、ぜひ皆さんのご意見をいただければと思ったのですが、市民意識調査の結果で、去年も今年も高齢者の施策の重要度がすごく高かったので、皆さん注目されているのだなと思いましたが、皆さんのご意見を伺えればと思います。

○延原委員

アンケートで上位に来ているので、入れざるを得ないでしょう。

○廣瀬委員長

気になりますのは、しあわせ倍増プランに入ってくる高齢者関係の施策は、高齢者に対するいろいろな施策の中でいうと、ものすごくコアな本筋の部分というよりは、それもいろいろな制度でもって法律上決まっているものが大半を占めていて、実際に提供されているサービスもそれによるものが多いのだけれども、それだけでは足りないところをどう充実させますかという形で取り組まれているもの、取り組もうとして提言されているものであることと、かつ、今回のマイナス2.3というのが出たように、それは市だけがやっていることではなくて、地域社会の方で市の政策とは関係なく自主的にもやっていて、実はその方が大事かもしれないような領域のことがあるというときに、しあわせ倍増プラン2009の今後の中で高齢者福祉の充実を重視して見ていかないと、と素直に入ってくるかという、少しギャップがあるかなというのが個人的には感じます。

○木島委員

私もプランを見直したときに、高齢者の施策を見ますと、全く同じような意見で、確かにこれをやったら本当に市民の方が求めているものとイコールなかなと感じるところはありました。一方で市民の方が求めていることとのギャップがあっても、そこだけでも何か提言のような形になるかもしれませんが、言っていく必要はあるのかなという気はしました。

○廣瀬委員長

介護する人への支援体制の充実などということと言うと、コアになってくる本筋のというか、ボリュームも大きく、制度もがっちりある領域の手が届きにくいところですから、そういう意味ではいいことではあるので、やっていくと意義は大きいです。

○木島委員

逆にこれしか見つからなかったもので。施策を見たときに全体に影響する高齢者対策はこれくらいしかないかなと思いました。ご指摘のことはごもっともだと思います。(3)の中をどううたっていくかということと関わってくるかも

しませんが、ここを見させていただくと、いろいろな意見があつて、それらを集約すると、3つか4つになります、という文章構成にさせていただいています。これを例えば最初から3つならば3つ、4つならば4つを書きさせていただいて、なぜならばという説明をする文章構成に、ほかと同じようにするのであれば、4つ目に関してはプラン自体が手薄という言い方もできるのかなと思いました。

○事務局職員

高齢者の総合的な福祉計画は、介護保険の事業計画と合わせて第5期を作成中です。ですから、倍增プランの福祉施策は一部の施策ですので、先ほど委員長がおっしゃったように、ここで言う市民評価対象の倍增プラン上の福祉施策、それから全体的な介護保険、高齢者の福祉計画は別にあるという捉え方がありますので、この辺をどうするかは委員皆さんにまとめていただいて、あとはどういう形で整理するかというのはありますが…。高齢者保健福祉計画等により高齢者施策の充実は当然していかないといけない。そういったところです。

○廣瀬委員長

市民ニーズの強いこういう領域で、これとは別の介護保険事業計画などの中で充実させていくべき課題が多いけれども、しあわせ倍增プランの中にも入ってくる手の届きにくい領域をさらに充実させようという、例えば地域社会における高齢者の活動を結び付けている取組や介護をされる方の支援体制なども併せて充実させていくことが期待されるというのが、しあわせ倍增プランとしてはその領域が守備範囲だけれども、その外側にももっと課題があつて、市民のニーズという観点からは両方見えますというのは示せると思います。

○事務局職員

(3)のところは、どちらかということ、市政についての提言ということで、必ずしも倍增プランの枠に限定せずに通り議論してみたら、やはりこういうことが出てきたので、倍增プランを越えて市に対してこういったことをもっとやってはどうかということですが、その書き方によっては倍增プランと別にあることを知らずに提言した感じが出ますが、そういうことではなくて、倍增プランの議論を通じて高齢者福祉にもっと市に頑張ってもらいたいということです。介護する支援体制充実と例示しているのがあまりよくないのかもしれないです。高齢者介護の話やシニアユニバーシティの話など、いろいろご議論いただいたのは、これから高齢者が増えていく中で、元気で活動的な高齢者の方々の場所を工夫していくべきではないかというご趣旨としての議論だったということ、上の方にいくつか書いて、それを一番下にもう少し入れるとしたらそういう形で、元々の中で③のところに書いて、事業手法といえば③だし、事業対象という意味では④、ということで力を入れてほしいという流れにしたつもりです。

○三浦委員

①から③までは、しあわせ倍增プランの分野と一対一ではないです。④も高齢者福祉という言い方をすると、分野と一対一の関係のように見えてしまいますが、元気なお年寄りの活躍の場を広げるという意味では、別に高齢者という

しあわせ倍増プランの分野に限らず、関連する事業はいっぱいあるように思うので、市民の関心が高いということも踏まえつつ、しあわせ倍増プランでも高齢者に注視して事業を展開してほしいということは言っているのではないのでしょうか。

○廣瀬委員長

それでは、括弧内は外して、課題としては重要ということで4つ掲げるということで確定したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

○事務局職員

1点だけ、すみません。①の括弧が逆に今度はそういう意味では、上の頭のところに子育て世代の支援がぱっと見ると抜けているのは、元々ポツで列記した中の一番上に書いている話が一番最後に抜けている感じがするので、①の括弧の中には子育て世代の支援や企業誘致、観光客誘致などというふうに書かせていただいて、前半と後半でずれが生じていますので。

○廣瀬委員長

それでは、この評価委員会からの提言部分、17ページから24ページでほか何かお気づきの点がありましたら、お願いします。

○長野委員長職務代理

1点だけすみません。今までご議論の中で市の役割としてさまざまな関係主体の調整を図っていくという議論が何回かありましたが、その中で現場の職員の方が頑張っている調整のためにいろいろと動き回るという趣旨での市という言葉が使われていた場合、市長レベルのリーダーシップを発揮して調整を図っていくべきだという議論での市がというので使われていたというのが両方相互に乗り入れながら使われていたのではないかと理解をしております。いくつか現場職員へのリクエストになっている箇所と、もう少し高いレベルのリーダーシップを期待するという議論があったと思うので、可能であれば少し分けて書いてあげた方がこの委員会からのメッセージとしてはわかりやすくなるのではないかと考えております。

○事務局職員

そこは実はあまり意識せずにおりましたので、どちらかというところ、書いている感じとしては市の職員をイメージして書いた箇所が多いのですが、逆にもう少し高いレベルのというのははっきり書いた方がいいところがあれば、文章として現場の職員レベルということではないように書きます。18ページの③は、事業が列記してありますが、避難場所の話のように防災の職員が全然現場を見ていないのではないかとということでしたが、そういうようなレベルの話と、一番下の大宮駅東口の再開発の場合は、職員レベルの調整もありますが、市長の政治的リーダーシップも必要というような要素としてはありますが、提言のところであまり書き分けたつもりはなかったのです。ただ、市の職員と書いてしまうと市長が除外されてしまうという読み方をされることはあると思うので、ここで市の職員という書き方にしてしまうと、議論として両方を指しているのか、片方しか指していないように見られる。

○廣瀬委員長

どれをどれと書いてしまうというよりは、市全体として積極的にアプローチをしていく構えが求められるものもあるし、現場の担当者がよりきめ細かく現場に入って実情を把握しながらつないでいくことが期待されるものもありますと、何番はこっちで何番はこっちということまでは書き込まずに、市が相手方との調整、両方の努力がいることを文章として、表現上2つあることを書き込んでいただくことでどうでしょうか。特に18から19ページのところでまず書く。後ろの方ではいろいろな議論の中でこういう発言があったというような形になってくるので、こちらはそのままでもいいのかと思います。では、相手方との調整については、2つの次元を明確に分けて表現するというところで取りまとめたいと思います。では、3まで、よろしいでしょうか。

4につきましては、私のところだけ空欄で申し訳ないのですが、つまり委員長という立場は個別の所感を持ってよいのか、委員会としての所感という趣旨で書くべきなのか迷っているうちに時間がなくなったのですが、特に当日も全体としての評価、提言のところを担当することになりますので、こちらで書いてということであればそれに合わせますが。

○延原委員

ここが空欄というのはおかしいでしょう。

○廣瀬委員長

どちらかは書きますが、この中で議論してきたことの全体を踏まえての所感、まとめの表現で書くのか、委員長として敢えて発言はしませんでした、実はこういうことを思っていたとか、そういうことは書かないとは思いますが、もう少し個人的な所感を書いた方がいいのか。後者のもっと個人的なことであれば、評価を終えてというところで、以下はある意味では個人の責任において所感を、この手前の段階までは委員会としての結果ですが。このページ以降は、そこの中にうまく十分に個別的には盛り込めなかった個人としての感想を含めての所感ですと説明を入れた上で書くのであればそれでいいのかなと思います。

○延原委員

どちらでも。

○廣瀬委員長

ただ、各委員の皆さんにも、個人として言いたいように書いていただければいいと申し上げつつも、前回の委員会のニュアンスは、いろいろな観点から自分の思いを書いていただくことを総合するとこの委員会が代表されますという意思確認でしたね。その意味で言うと、ある種二重の課題を背負って皆さんにも書いていただきましたが。

○延原委員

委員長のよろしい方で書いたらどうですか。

○廣瀬委員長

では、議論をしてきた全体を踏まえて書きます。それぞれの委員の皆さんから出されたものを並べましたので、これならば書きぶりを少し変えようかなと

思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、その修正も含めて来週の火曜日には印刷入稿ができるくらいのタイミングがぎりぎりなので、もし修正がありましたならば、そこまでということで、11日です。

○福崎委員

訂正の依頼ということで、一つ確認させていただきたいのですが、例えば、文章構成、長い一文をここで短く切ってほしいとか、この言葉をこのように変えてはどうかという提案はメールでもしてもいいと思いますか。今日の会の中で皆さんに、もっとこうした方がいいと思うとか、ここで文章を分けた方が見やすいとか、細かいところまでやれる時間があつたらよかったです。ないので、メールで事務局に送るとなると、一対一になってしまうので、委員の皆さんの意見は聞けないので気になってしまうのですが、文章構成としての意見はこのメールに書いても大丈夫でしょうか。

○廣瀬委員長

11日火曜日の午前何時かまでに出していただいたものについて、最終的には事務局と委員長で確認して、直した方がすっきりすると思えば採用するし、どちらもあるだろうし、皆さんには確認をさせていただいていることだからこれはもう元のままでもいいとか、それは判断させていただく、一任いただければ、いろいろな人の目を見て良くなることは多いと思うので、遠慮なくいただきたいと思いますが、例えば11日の午前9時までに出していただいたものについては受け付けて対応をしてという形にしてはどうでしょうか。

○事務局職員

作業量にもよると思いますが、目途として11時とさせていただきますでしょうか。お昼までにできる作業があれば組み立て方もイメージできると思いますので、お昼より少し手前にいただければと思います。11日火曜日11時とさせていただきますと思います。よろしく願いいたします。

○廣瀬委員長

同様に個々の所感についても、ほかの方の所感と照らし合わせて、もう少し書き方を変えようとか、もう少し書き込んでもいいかなとかありましたら、11日の11時まででお願いします。

分野別の委員の評価結果のコメントも、基本的には議事録からとっていただいています。議事録の文章がそのままではなくて、若干整理されていると思いますので、ご自分の発言だと思ったところで、ニュアンスが違って、こうしてほしいということがもしありましたら、これも同じタイミングまででお願いします。その修正を含めて最終の取りまとめについては、委員長と事務局で最終確定するというご一任をいただければと思います。

○猪野委員

所感を書いていると、どんどん字数が増えてしまって、600字では収まらなかったのですが、なんとか600字を頭に入れて削ったのですが、何文字程度まで許されますか。皆さん結構書かれているので。

○事務局職員

お一人だけ5ページも6ページもというのはさすがにまずいですが、厳密に

何字までというのはありません。そういう意味でもう少し書き足したいということがあれば、その修正は大丈夫です。

○廣瀬委員長

それでは、報告書の取りまとめ、最終確定の手順につきましては以上でよろしいでしょうか。

あとは、10月15日の市民評価報告会をどう進めるかということを確認できれば13日の予備日は開催しなくてもいいのではないかとということになるかと思いますが、報告会の進め方(案)をご覧ください。まず、標題があって一行目、進行〇〇とありますので、全体の進行の志願者を求めたいと思います。

○延原委員

去年は誰ですか。

○廣瀬委員長

去年は伊藤麻美委員・・・どうやって決めましたかね。

○栗原委員

あれは伊藤さん、お願いしますになったのです。

○延原委員

お若い方にやってもらった方がいいと思います。将来のために。

○伊藤委員

声のとおりから女性がいいかなと思います。

○福崎委員

よろしければぜひやらせていただきたいと思います。

○廣瀬委員長

では、福崎委員から申し出もありましたが、お願いするということでもよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それからおおむねの進め方は前回の議論を踏まえてまとめていただいております。報告書の説明が簡単であって、そこから55分程かけて報告という形で概要が長野さんをお願いして、結果はこうであったというのが15分、提言については私から10分程度、それから評価を終えての委員からの報告をお一人3分ということで、現時点では報告委員が9名で、ご欠席の方が3名という状況ですので、27分ですが、若干人の入れ替わりなどで時間がかかるので、これで1時間弱というところです。まず、全体の構成は前回の議論を踏まえてということですが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それから、結果の報告と提言については、今日おおよそ固まりました報告書を踏まえて、それを反映してパワーポイントを作成して、それを投影しながら発表するという進めたいと思います。各委員の所感の発言時間についてどうするか。例えばパワーポイントでキーワードを示すとか。

○延原委員

自分用のパワーポイントは原案をつくってということですか。

○廣瀬委員長

原案をつかって、あるいはこのキーワードでつくってという依頼をして。

○延原委員

それは、今回は各委員が自由に自分の所感を選んでいるので、各委員に責任があるということですよね。パワーポイントはつくれないからつくってもらいますが、キーワードはこれで行ってくださいと言わないといけない。

○廣瀬委員長

内容についてはそうですね。体裁を整えるとか、各自が持ち込んだファイルを当日になってから投影用のコンピューターに入れたりするのはかえって手間なので、このキーワードで簡単につくってくださいとお願いをしておいて、メール等でこのような画面になりますというのをいただく。それか3分の簡単なスピーチだから、特にパワーポイントはなしでやろうということでも構わないし、パワーポイントある人とない人が混ざっているのか、ある人がいるのであればとりあえずキーワードだけでも皆さん何かを投影しながら話したほうがわかりやすいか。全員がキーワードを指定していただいて、それなりに統一されたデザインで、仕上げは事務局でやって、全員パワーポイントを使う。全員使わない、人によって違う。

○伊藤委員

所感を読んでしまったらまずいですか。

○延原委員

聞く側としては伊藤さんのポイントが出た方がわかりやすいです。

○伊藤委員

そうですね。

○延原委員

キーワードだけでも1行か2行あった方が。

○伊藤委員

その辺はお任せしても大丈夫ですか。

○事務局職員

こういうことを話されるということであれば・・・

○伊藤委員

あまり余計なことを言うとまずいので。あまり意識すると、余計なことが余計なことではなくなってしまうので。

○事務局職員

その辺はいかようにもさせていただきます。

○伊藤委員

やはり、基本的には実態と合わない部分を感じますので、その辺はわかった上で今後やってほしいということでおさめたいと思いますが、パワーポイントの作り方はお任せします。

○廣瀬委員長

だいたいこの辺とこの辺ということでアンダーラインを引いていただいて。

○伊藤委員

ここに書いてあるようなこと、あるいは私は自治会なので、自治会で取り組んでいるものの中から選んでもらっていいと思います。

○事務局職員

お書きいただいていますので、これを元にしてつくってみます。

○伊藤委員

お願いします。

○廣瀬委員長

所感のまとめ方が委員によって若干違う部分もありますが、例えば、前半はこういうタイプで、後半は具体の事業を挙げている方に話していただくという整理をするのか、その違いを含めて個人としての所感なのだからあまり内容による順番を整理することは意識せずに、例えば、50音順で順次3分ずつ発言いただくか、聞き手にとってどちらがわかりやすいかですが。

○延原委員

50音順でよろしいのではないですか。

○事務局職員

一つ少し気にかけていたのは、今回は9名ということで30分入れ替わり立ち替わりだと、べたーとしてしまうのかなというのもありまして、個別事業についてはいろいろとご意見、会場からのご質問もあると思うので、それは先にご報告いただいた方がいいと思いますが、全体的な所感としておまとめいただいている方は、例えば、質疑のやりとりも踏まえて、一人ずつコメントをいくつかいただく形で、委員からの報告は2つに割るというやり方もあるのかなと思います。何人かの委員で個別の事業もおっしゃっている方は、委員長の提言の後に発表していただいて、それを含めて質疑報告の前にやって、質疑報告の後にそれも含めた本当に所感だけをおっしゃっている委員はそこで登壇していただくイメージです。30分くらいであれば大丈夫だろうということであれば、とにかくお一人ずつ順番に立っていただいて、その後に質疑応答をまとめてやる。

○福崎委員

この点についても、去年の様子をお聞きしたいのですが、去年は全員がまとめて報告されて、質疑の時間をとられたのですか。

○廣瀬委員長

去年は分野ごとに順次報告を、一分野二人ずつまとめて登壇していただいて、その分野の前半と後半で入れ替わりつつご発言いただいて、その二人分が終わると次の分野の方が司会から促されてお二人登壇して説明するという形でしたが、分野別で概要がこうでこういうものに課題がありましたというのを順次聞いていくのはなかなか集中力が続かないところがあったかもしれません。

○伊藤委員

評価以外に脱線してしまう可能性もありますが。

○事務局職員

そこは所感なので、当然、報告自体もそういう話ですから、基本的にはその

3分間はお任せします。

○延原委員

3分間は委員の個人の責任において自由に発言するという前提に立てば、9人の委員は一気に話しきった方がいいと思います。原稿は書いてあるけれども、話しているうちに内容を変えるかもしれないし、それはあり得ると思います。

○事務局職員

必ず原稿どおりでないといけないということではないと思います。まさに当日のやりとりや委員長、長野委員の報告を聞いたりした上で、その場で3分間話していただいても結構です。

○福崎委員

気になったのは、9名が一度に話した時に聞く側が疲れてしまわないか、だらけてしまうのではないかという指摘があったので、去年は10名まとめて話をされた時は聞き手の様子はどうでしたか。

○猪野委員

資料を皆さん配られたのですが、その場で次はこのページを見てくださいと言われて、ぱらぱらめくって聞いていました。

○事務局職員

そういう意味では、今年はお任せすれば皆さんいろいろなことをおっしゃると思うので、去年みたく淡々と続いていくということではないと思います。

○延原委員

委員所感を見ていると、私を含めて半分以上の方は何ページの何々の資料についてと言わないとだめだと思います。だから聞いている人は忙しいと思います。具体的な事業の方が半分以上おられますので、どの項目について自分が話しているか、何ページの何々ということになってくるので、聞いている人は去年と同じで忙しいと思います。暇ではない。

○廣瀬委員長

委員会としての評価報告というよりは、個別の事業について踏み込んで発言をされるとしても、基本的にはこの時間帯は個人の所感の発表の場であるということなので、あまり前半と後半に分けて、個別事業が出てくる方は前半に、委員会としての評価報告に続けて発言いただいてそこで質疑となると、そこまでは委員会としての報告に逆に聞こえる、それから最後に個人としての感想を何人かにいただくということになってしまうので、まとめるのであれば、個人の所感であるという前提で言えば、まとめた方がいいのではないのでしょうか。

それでは、まとめて続けて一人3分の9名として、その後に質疑応答を入れると、これは各委員対応となっていますが、どういう種類の質問が出てくるかによって、司会が振るなり、自ら答弁するなり…

○延原委員

今年委員長に振れないですね。

○廣瀬委員長

個別の所感に関する質問が出れば当然振れないですが、提言に関する質問が出れば私が答えることになりまして、つまり結果に関する確認やこれはなぜこ

うなっているのかという話であれば長野さんか私かになると思います。

それでこの所感に関連して、パワーポイントのキーワードも11日にまとまるよりは、11日にはまず報告書を確定することを先行させて、パワーポイントは直前につくったものでも間に合いますから、数日あえて設定は遅らせますか。このキーワードで共通のデザインでつくってくださいという指示はいつまでにお出しすればよろしいですか。

○事務局職員

11日の11時で一緒にできればいただいて、ただそれで終わりではなくて、もう1回こちらで全体を調整しますので、それをフィードバックしていただいて、そこから先はどれくらいこちらのまとめの作業ができるか次第ですので、なるべく早くですが、ぎりぎりは当日になると思います。

○廣瀬委員長

基本的には11日の11時までには、所感についてはこのキーワードでパワーポイントの画面をお願いしますという連絡をいただくということをお願いします。

○延原委員

そのパワーポイントのドラフトはいつ返ってくるのですか。

○事務局職員

その部分と全体とのパワーポイントがいつできるか次第ですので、なるべく早くとしか申し上げにくいです。いずれにしても、ほかの委員さんとの調整をする部分もありますし、それをお返しして、それだったらとこういうふうにとり方も出てくるかと思しますので、火曜日中にできればいいですが、少なくとも水曜日中には返さないと、本番が土曜日ですから。

○廣瀬委員長

12日の水曜日中くらいに確認のものが戻ってきて、もしそれに修正がありましたら、例えば翌日くらいにお願いしますと。

○事務局職員

そこは金曜日でも大丈夫だと思いますが。

○廣瀬委員長

それでは、まず進行につきましては、ほかに何か確認すべきことはありますか。所感のときは一人ずつ上がっていただくか、それとも何人かで上がっていただいた方がいいですか。基本的に登壇いただいて、順次マイクを回しながらいきましょうか。

あとは当日の集合時間ですが、午後2時半にスタートする予定で、2時に開場なので、開場時間以前の段階で打ち合わせ等確認をする。場所を確認して、どこで登壇して、どこでしゃべるか、などの確認を、ですから午後1時半くらいに集合した方が安心かと思えます。このホールに1時半に集合ということをお願いいたします。

では、この10月15日の件につきまして、ほかに何か確認事項、連絡事項がありますでしょうか。よろしいですか。

○栗原委員

すみません、実は出席になっているのですが、急に仕事が入ってしまいまして、出席が難しくなってしまったのですが、大丈夫ですか。

○廣瀬委員長

今回は分野の分担という形ではないので、所感の部分はもう報告書の中に印刷物として市民の皆さんにお伝えすることになりますけれども、そういう形でよろしくをお願いします。

○栗原委員

申し訳ないです。

3 その他

○廣瀬委員長

では、市民評価報告会につきまして以上でよろしいでしょうか。では、その他ですが、委員の皆さんから何かありますでしょうか。では、事務局から何か伝達事項がありましたらお願いします。

○事務局職員

本日ご議論いただいた中で、報告書の修正等については、休み明けの10月11日11時までに、またパワーポイントのオーダーもその日程で事務局までご連絡等お願い申し上げます。パワーポイントにつきましては、事務局で作成次第、水曜日あたりにお返しして、また当日まで編集等させていただきたいと思えます。

そして10月15日土曜日の報告会当日の集合時間は午後1時半となっております。事務局は1時から開場の準備をしております。委員の皆様は1時半にお集まりいただいて、楽屋はあるのですがとても狭いので、現場の会場で打ち合わせをしていただいて、イメージを出していただきたいと思います。また当日ですが、去年どなたかにお願いしたタイムキーパー役、質疑応答のマイク回しは当日に事務局が担当させていただきたいと思えますので、基本的には委員会主催の報告会なので、ぜひ皆さんが何らかの形で関わられるようお願いしたいと思います。

また、予定をしておりました委員会日程につきましては、10月13日の予備日を設けておりますが、委員長からお諮りいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○廣瀬委員長

今日は10月15日の段取りを含めまして、ほぼ確定できたと思えますので、13日は特に開催をしないということで、次は15日当日午後1時半の集合ということで、よろしいでしょうか。

4 閉 会

○廣瀬委員長

では、以上をもちまして、第10回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会を閉じさせていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございました。